

初めての山笠

南木、太陽、両地区合同で発足した「南陽会」の初参加

「子どものころからの夢だった」「うちの地区に無いのはさみしい」「ほくも山笠に乗りたい」「山笠がなかった南木地区と太陽地区、子どもから大人までの大半が、それぞれの言葉で山笠へのあこがれを口にする。そして平成18年10月14日「自分たちの山笠を、その念願がついに叶った。」

そこで南木地区が、隣の太陽地区に合同で山笠を建てることを提案。太陽地区もこれに賛同した。会の名前は「南陽会」、南木地区と太陽地区の「文字ずつ」をとり、平成17年の春に、少数で発足した。

「一書空の下で「南陽会」の文字を背負い、誇らしげに山笠を揺く。南木と太陽、この日、新たな山笠と地域を越えたいとあきらまなかった。」



「早く祭りばやしをマスターして、ぜったい山笠に乗りたい」と語った子どもたち。練習に熱がもる。



人形を握え、連日深夜までの作業が続く。何度も繰り返した電飾の作業。⑤。装飾と安全面で貢献、南陽会の文字がきらめく巻き込み防止板⑥。



出発の朝。南陽会山笠

近藤 家充 会長（南木）

右も左もわからないゼロからのスタート、苦労もたくさんありました。そんなわたしたちに何から何まで指導してくれた地域（特に神崎地区・平原）の山笠関係者に心から感謝しています。「自分たちの山笠を」という長年の夢が、いま実現しました。今日から事故のないよう、最後まで気を引き締めていきたいと思います。



↑愛情こもった手料理で、南陽会を支え続けた女性たち。地域の願いがかなった出発当日、手つきも軽やかに笑顔も弾む。



「一書空の下で「南陽会」の文字を背負い、誇らしげに山笠を揺く。南木と太陽、この日、新たな山笠と地域を越えたいとあきらまなかった。」

老若男女の粋

「女性は山笠に触れてはならない」という昔からのしきたりがあった。しかし今は男女共同参画の時代。老いも若きも男も女もそれぞれが祭りでは「粋」である。そして忘れてはならないのが、炊き出しなど影から支えてくれる女性がいること。すべての調和によって祭りは成り立っている。

秋晴れには福智の緑と稲穂の黄金、そして山笠の金色が映える。赤池、金田、神崎、熱を帯び燃えた十月、福智の祭り。鬼が出る、獅子が舞う、山笠がきしむ、人が沸く。福智の祭りには、人々を興奮へとぎなう不思議としか言いようのないエネルギーがある。

其ノ二 [映える三祭]

写真は、今年の白髪神社神幸祭（伊方）飯土井神社神幸祭（神崎）赤池統一秋祭りで囃子方を務めた小松沙也加さん（右）と赤野麻里絵さん（ともに赤池）